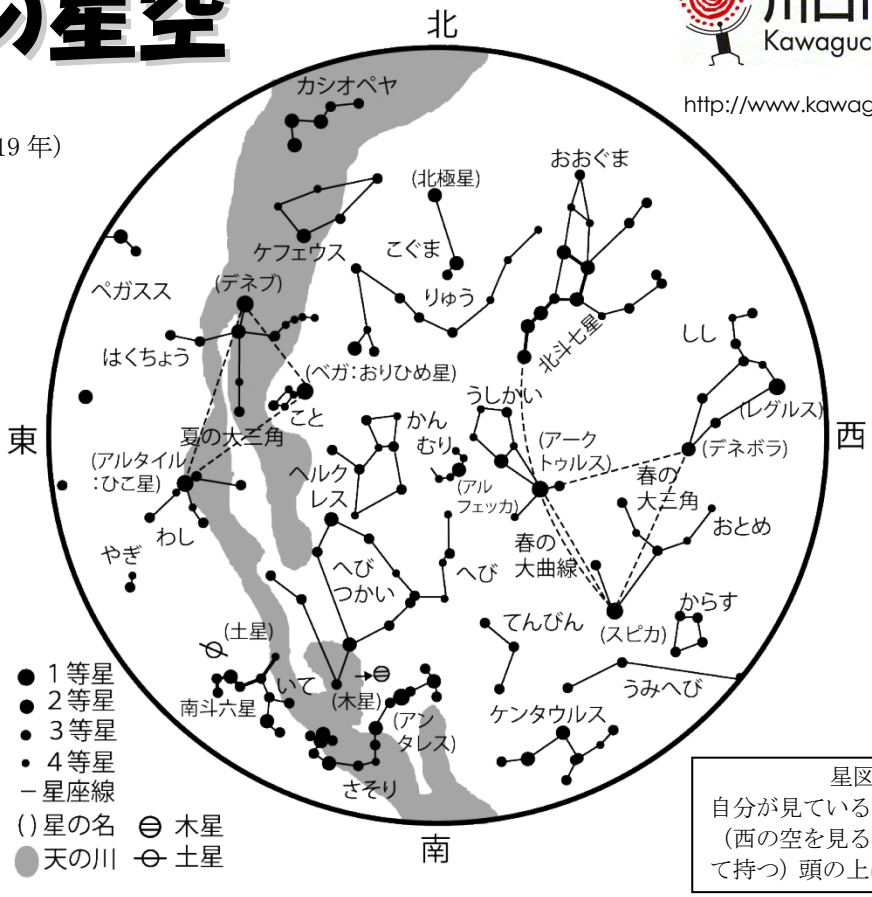
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum

7 月 (2019 年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、（西の空を見るときは西を下にして持つ）頭の上にかざして見ます。

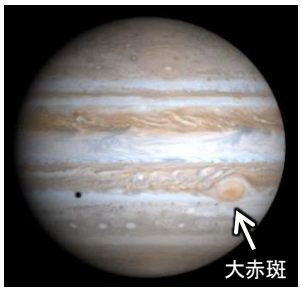
月　齢　●新月 3 日、◐上弦 9 日、○満月 17 日、◑下弦 25 日
惑星情報　木星　夜のはじめ頃　南（へびつかい座　−3→−2 等級）
土星　夜のはじめ頃　南東（いて座　0 等級）

☆夏の星座と七夕の星

今年の夏は、さそり座の近くに木星、いて座の近くに土星があります。さそり座もいて座も 2〜3 等星以上の比較的明るい星が多いため、惑星を目印にすれば、これらの星座を見つけやすくなります。

東の空には、夏の大三角が昇ってきました。この 3 つの 1 等星のうち、こと座のベガは、おりひめ星、わし座のアルタイルは、ひこ星です。7 月 7 日が七夕ですが、この頃の関東地方は、平年では梅雨明け前で天候不良の日も多いため、この日に限らず、晴れたときに夜空を見上げてみてください。なお、本来の七夕である旧暦の七夕（伝統的七夕）は、今年は 8 月 7 日です。この頃は夏の大三角も高く昇り、七夕の星も見つけやすいでしょう。

☆一期一会の木星〜望遠鏡で観察しよう〜



©NASA/JPL/University of Arizona

木星を望遠鏡で観察すると、特徴的な模様として、明暗の縞模様と大赤斑（だいせきはん）を観察できます。ただし、大赤斑は、木星が自転しているため、いつも観測できるわけではありません。その自転速度は地球よりも速く、約 10 時間で一回転します。つまり、大赤斑が木星の端に見え始めてから、約 5 時間で裏側に回ってしまいます。

また、木星には双眼鏡や小型の望遠鏡でも見る事ができる 4 つの衛星（ガリレオ衛星）があります。一番内側の軌道を回るイオは、公転周期が約 1.77 日（42.5 時間）のため、わずかな時間で位置が大きく変化します。一晩の観測で、木星の裏に回ったり、裏から現れたりすることもあります。

このように、木星は自身の運動やそれに伴う大気（模様）の変化があり、また、気象条件によっても見え方が変わります。どんな木星が見えるか、実際に科学館天文台の望遠鏡で確かめてみましょう。

ピックアップ〜かんむり座〜

2 等星アルフェッカが目印。その他の星は 4 等星以下だが、コンパクトにまとまった半円形の星の並びが特徴。神話では酒の神デュオニュソスが結婚式の日に妃アリアドネに贈った冠とされる。アルフェッカの別名は、宝石という意味のゲンマ。日本ではその形から首飾り星やたいこ星などの呼び名があった。